

1 教科・単元名

総合的な学習の時間 甲山の自慢を調べようⅡ～

2 本時の目標

- 肖像権について理解し、自分たちが使っている写真をどのように活用していくことが必要であるかを考えることができる。(思考・判断・表現)

3 本時のねらいは達成されたか

- ・21人中19人が「相手に使っていないか聞く」「相手の気持ちを考えることが大切である」という言葉を用いてまとめることができた。また、21名中14名の児童が、自分たちが使った写真について、「お店の人の許可を取る」「お店の人の気持ちを考えることが必要である」と振り返ることができた。このことから、教科のねらいはほぼ達成できた。

4 目標達成のための手立てと成果

(1) 情報活用能力の育成

- コンテンツ「事例で学ぶNetモラル」を視聴することで、写っている相手の気持ちに着目させ、人が写った写真を使う時には相手の許可が必要であると気付かせることができた。
- 甲山じまん新聞で使った写真の使用が適切であるかどうかを振り返らせることで、「肖像権」について自分事として考えさせることができた。

(2) 主体的な学び

- 事前に、校長先生から甲山じまん新聞に使った写真について指摘を受けるという場面を設定したことで、児童に本時のめあてを意識づけさせることができた。

5 課題

- 本年度は、コロナウイルス感染症の流行に伴い、教師が用意した写真を選ばせたため、児童が自分の課題として捉えにくい面があった。実際に児童が撮った写真を使用して、「肖像権」について考えさせたい。
- 「肖像権」を守って写真を活用させることがねらいであったが、「写っている人の気持ちを考える」という道徳的な面について考えさせることが中心になった。総合的な学習の時間で、「肖像権」を情報化社会で身につけるべき知識として学ばせる発問や学習過程について改善していく。
- 導入で、校長先生から甲山じまん新聞に使った写真について指摘を受けたことを想起させることが本時の課題意識につながった。そのため、振り返りの際にも、校長先生にどのように写真を使っていくかを伝えさせることで、学習したことを生かす活動を設定する予定である。

6 分科会の指導助言を受けて

- ・総合的な学習の時間では、「相手意識」と「目的意識」を児童が常に意識していくことが大切であると学び、授業の始めに児童間で共有化していく必要があると感じた。
- ・児童が本時の課題を自分事として捉えていくためには、導入が重要であると学んだ。校内の人材を活用したり、児童の日常生活に近づけたりする工夫をしていきたい。

